

にちれんしゅう
日蓮宗の寺
みなみしんきょうじ
南真経寺とは？



江戸時代はひめに建てられたよ！

真経寺は、江戸初期に僧侶の学問(檀林)を開講するにあたり、南北両真経寺に分かれます。興隆寺の境内を借りる形で移転してきたのが南真経寺のはじまりです。

最初に「開山堂」を建立し、その後「本堂」、「梵鐘」、「鐘楼」などが整備され、現在にいたっています。



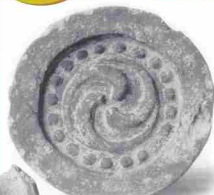
北真経寺との御霊宝の受け渡し行事だよ！



▲御霊宝お送り・お迎え行事

トピックス

かいでこうりゅうじあと
鶏冠井興隆寺跡の「金箔瓦」出土!!



▲金箔軒丸瓦発見されたのは1点のみ。

1975年(昭和50)、南真経寺の北西の発掘調査で、安土桃山時代の金箔軒丸瓦と熨斗瓦が出土しました。

金箔瓦は信長や秀吉の城郭や屋敷に限って出土します。鶏冠井興隆寺を創建した日義が秀吉と同じ尾張の出身であること、秀吉の聚楽第建設に力を貸したことが関係すると考えられています。

歴史ミステリー発見

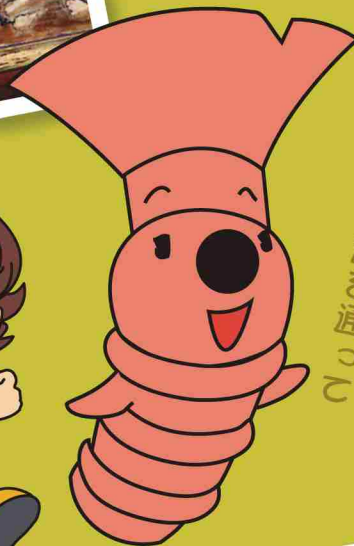
「鶏冠井興隆寺」とは？

かつて南真経寺を含む一帯にあった日蓮宗の寺院です。1590年前後(天正末年)に、妙顕寺(京都市上京区)の10代目にあたる、日義が開いたお寺といわれています。境内は東西は約120m、南北は約140mと、とても広大でした。また、周囲は高さ約3mの塀と堀で囲まれていました。1875年(明治8)に、鶏冠井村の「石塔寺」と合併し、廃寺となりました。



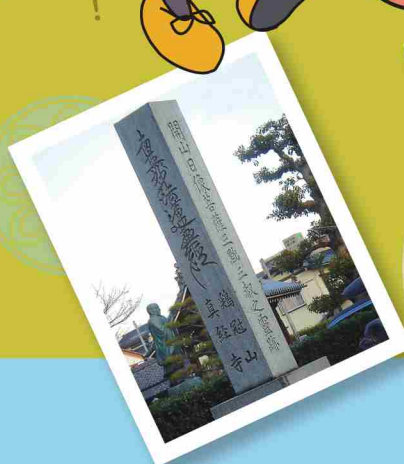
南真経寺

みなみ しんきょうじ



西国街道を通る

行くついでに...



発行 向日市教育委員会

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地 TEL. 075-931-1111

▼現存する開山堂



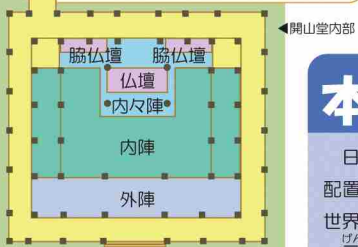
南真経寺最古の建物

開山堂

境内の中央に南向きに建つ入母屋造の瓦ぶき建物です。2本柱で支えた向拝をくぐると広い階段があり、五間四方で周りに縁がめぐります。

内部は北寄りに仏壇、お供物を置く内々陣、僧がお経をあげる内陣、お参りの方が座る外陣に分けられています。仏壇の後ろには脇仏壇が2つあります。このような建物の使い方は、江戸時代の日蓮宗寺院特有のもので、内陣には十界曼荼羅と日像上人像が安置されています。開山堂は、1642年(寛永19)に完成したことが棟札からわかっています。

1987年(昭和62)、府の文化財に指定されました。

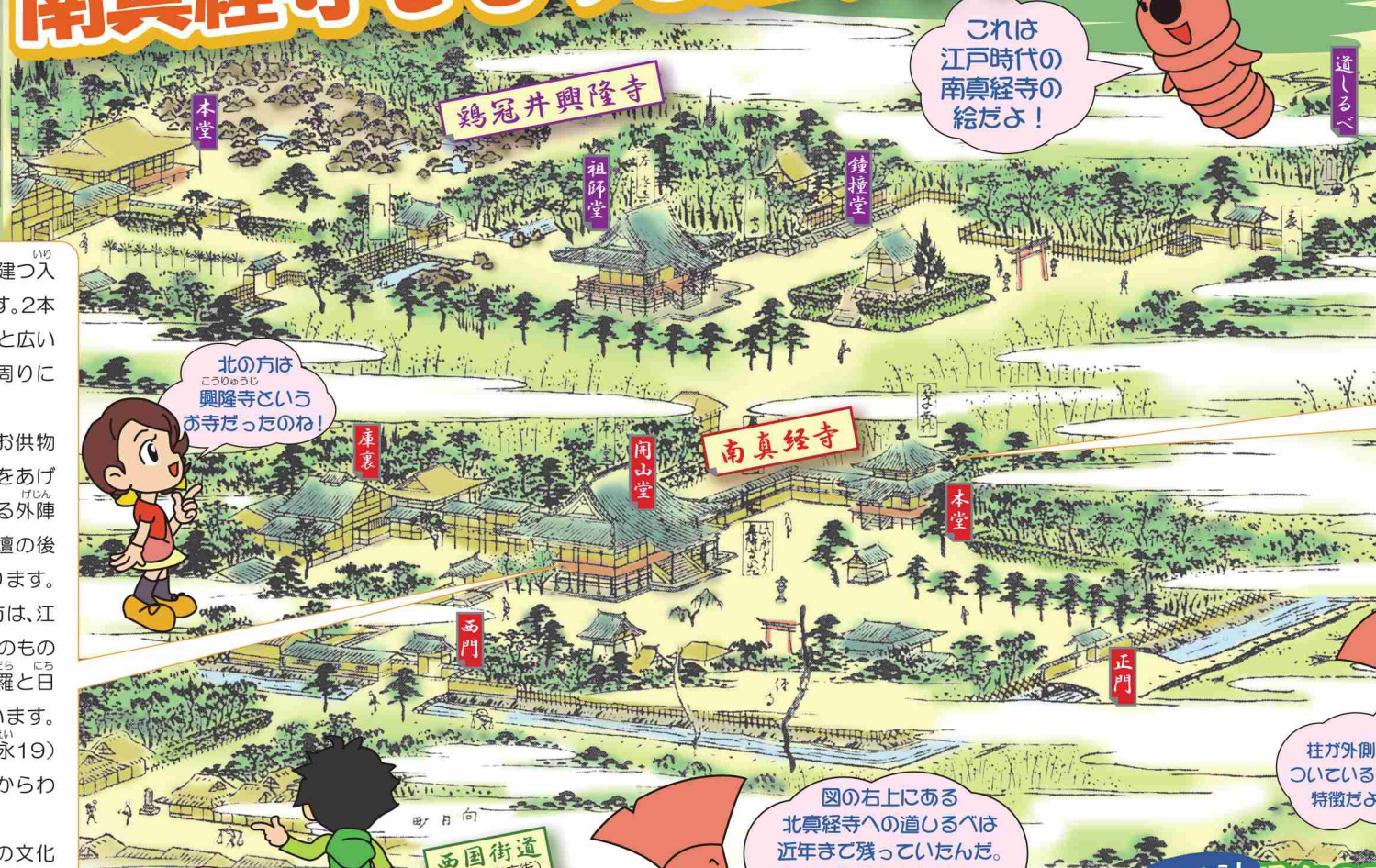


開山堂内部



京都の日蓮宗寺院では2番目に古いです。

南真経寺をもっと知ろう!



北の方は興隆寺というの寺だったのね!



こっちは西国街道だね!



西国街道(向日町商店街)

これは江戸時代の南真経寺の絵だよ!



道しるべ

図の右上にある北真経寺への道しるべは近年まで残っていたんだ。今はもう見られないよ...



柱が外側に付いているのが特徴だよ。

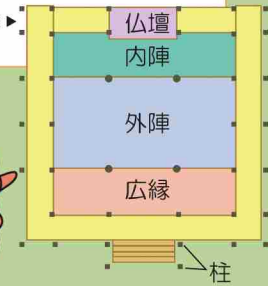
本堂

▼現存する本堂



境内の北東に西向きに建つ宝形造の瓦ぶき建物です。開山堂と渡廊下でつながっています。1714年(正徳4)に建てられ、1987年(昭和62)、府の文化財に指定されました。

本堂内部



本尊曼荼羅

日蓮が発案した文字曼荼羅で、中央に題目を配置、如来や菩薩などを漢字で記し、法華経の世界観を視覚的に表現した墨書です。元弘の乱のあった1332年(元徳4)、日像が門流の安穩を祈って「一結講衆」に書き与えたとされています。鶏冠井村民にとって、日像から直に教えを受けた証となる大切なものです。



「興隆寺と南真経寺」

上の図は、1787年(天明7)に出版された拾遺都名所図会に掲載されたものです。上に位置するのが興隆寺で、下が南真経寺です。南真経寺の中心にあるのが「開山堂」、向かって右側にあるのが「本堂(当時は鏡智堂)」、左奥が「客殿」と、現在の配置とほぼ同じことがわかります。

くらべよう! 現在の南真経寺



客殿や開山堂、本堂の場所は江戸時代と変わってないんだね!



桃の瓦や鬼瓦、かあったよ! 壁